

我孫子市交通安全推進協議会 第1回 会議概要

- 1 日 時 平成22年12月20日（月） 午前10:00～11:30
- 2 場 所 市役所分館2階大会議室
- 3 出席者 (委員)
河野聡委員、原田修委員、鈴木幸子委員、小林ふみ子委員、桜井和子委員、
中村富士夫委員、小嶋榮一委員、鈴木孝委員、増田昌一委員
(欠席委員：井上和也委員、鈴木絢子委員、津川勝彦委員)
(事務局)
市民生活部椎名部長、海老原市民安全課長、鈴木課長補佐、服部主査、中野
- 4 議 題 (1) 第9次我孫子市交通安全計画の概要について
(2) 第9次我孫子市交通安全計画（案）進捗状況について
(3) 今後のスケジュールについて

5 会議の公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 1名

7 会議内容

○ 傍聴と会の成立について

(事務局説明)

本日の会議の傍聴については、公募による委員が含まれていないため、発言の機会がないことと、出席者が委員の過半数を満たしていることから、協議会会議が成立していることについて報告した。

○ 委員紹介

市民生活部椎名部長のあいさつの後、今年度最初の会議であることから、委員及び事務局の自己紹介を行った。

○ 我孫子市の交通事故の現状について

議事に入る前に、河野委員から、我孫子市内の交通事故の発生状況について説明をお願いした。

(河野委員説明)

我孫子市内で発生した人身事故のうち、死亡事故は、平成20年は7名、平成21年は3名、平成22年は1名で、前年比マイナス2名となっている。22年の事故は、9月25日に国道356号線我孫子中学校正面付近で発生した。

人身事故の発生件数は、12月19日現在で平成22年は437件で、昨年の同期比でプ

ラス57件、負傷者数559人で、昨年同期比プラス89人となっている。物件事故は、1,962件で昨年同期比マイナス20件と減少しているが、平均して1日に7件弱の事故が発生している。

交差点での事故は、信号なしの交差点で25%、信号ありの交差点で21%、併せて46%になる。直線道路での事故は33%、追突事故は30%となっている。交差点内では、出会い頭の事故のうち、右折が15%、左折が5%で、左折より右折の事故の方が多く発生している。

また、運転を始めてからどれくらいの距離を走ったところで事故が発生しているかという点、運転を始めてから500メートル以内の事故が34%、1キロ以内が25%、2キロ以内が15%ということで、2キロ以内で発生している事故が約80%を占めている。この状況から、安全運転の意識を持ってからスタートする必要があるといえる。

今月10日から31日まで、冬の交通安全運動を実施している。スローガンは、『ちょっと待て!! たった一杯危険はいっぱい』となっている。重点目標は、1. 飲酒運転の根絶、2. 高齢者の事故防止、3. 自転車の安全利用の推進である。自転車については、運転中に携帯を使用したり、二人乗りをしてふらついて事故に遭ったりしている。飲酒運転については、配布しているチラシを作成し、啓発しているが、未だに飲酒運転している人もいる。常習者をいかに減らすかというところに力を入れているところ。

(会長の選出)

事務局に一任され、小嶋榮一委員を推薦したところ、拍手でもって承認された。

(議事：概要)

- (1) 第9次我孫子市交通安全計画の概要について
- (2) 第9次我孫子市交通安全計画(案)進捗状況について

(事務局説明)

○ 議題(1)及び(2)について説明

第8次の交通安全計画は、平成18年度から5年間の計画で、今年度一杯で終了する。

第9次の交通安全計画は、平成23年度から27年度までの5カ年の計画。交通安全基本法に基づき、国の交通基本計画や県計画との調整を図りながら策定していく。県の動向については、計画の素案を年末までに作成し、1月下旬頃に市町村に提示できる見込みとのこと。

我孫子市の9次計画は、第8次の計画を踏襲していく予定で、交通の状況の変化に合わせて変える予定である。

○ 資料1に基づき我孫子市の交通事故の現状を説明

交通事故の発生件数は、減少傾向にあったが、平成22年は増加に転じている。年齢別の交通事故発生状況を見ると、平成21年は、高齢者が全体の約33%で約3割以上も占めている。歩行者の事故は横ばいの状況にあり、自転車による事故は16年をピークに減少傾向にある。

市のスタンスとしては、高齢者・子ども・歩行者・自転車を中心に充実させていきたいと考える。

自転車については、平成21年まで、発生件数としては減っているが、街頭指導をしていると、危険な運転をよく見かける。安全運転の意識啓発についてもこれまで以上に啓発活動を強化・充実させていきたい。

また、近年改正された道路交通法については、一覧表のとおり。

千葉県道路交通法施行規則の一部改正について、国の第9次交通安全基本計画(中間案)が出されているが、第8次計画と比較して、主な変更については、資料に記載のとおりである。

第9次計画の組み立てとしては、第8次の組み立てを見直して、県の計画に準じたかたちで総論を盛り込んでいく考え。

(質疑・回答)

鈴木(幸)委員 交通安全基本計画の主な改正点の中の「歩行中の高齢者への反射材の普及促進」とあるが、具体的にはどのような取り組みを考えているか。

事務局 現在も、老人会などで配っている。グッズの配布は、機会があればやっているのので、積極的に促進していきたい。

中村委員 第9次計画策定にあたっては、5年間やって課題は何か。第9次交通安全基本計画の中間案の主な改正点を、市の計画にはめ込めばいいが、課題が見えてこない。我孫子市としてはどうか。

事務局 我孫子市の年齢別の交通事故発生状況を見ると、高齢者の割合が高い。また、子どもについても全体の発生件数が減少しているにもかかわらず、横ばいの状況である。

鈴木(孝)委員 我孫子市における事件・事故の特徴などあれば教えていただきたい。

河野委員 我孫子市は、国道が東西に伸びている。速度違反をしているので、いったん事故が発生すると、大きな事故になっている。事故の発生件数は、同規模の自治体と比較しても少ない方だと思う。

鈴木(孝)委員 高齢者の人身事故が全体の人身事故の約3割を占めているということだが、特徴はどういった内容か。

- 事務局 横断中の事故が突出している。一般的に横断中の事故が半数を占めている。
- 河野委員 高齢者が道路を横断するときには、斜めに渡ったり、横断歩道のないところを渡ったりするほか、黒っぽい服を着ていて夜間に事故に遭う、自転車のふらつきによる事故や、確認しないで急に曲がって事故に遭うなど、自己中心的な行動が事故につながっている。
- 原田委員 以前、館山市に勤務していたが、高齢者の割合が22%、南房総市では36%、館山市では31%と、高い割合である。事故の特徴としては、道の中央に出てくる自転車がいて、クラクションを鳴らされ、振り向こうとするが体がついていけずにふらついて転ぶ、斜めに渡るという状況。後ろをみる筋力がない。
- 電動アシストつき自転車（駆動補助機付自転車）が増えてきている。高齢になると、歩くことが難しいのでオートバイやアシストつき自転車を使用しており、ある意味買い物難民となっている。
- 高齢化率が高い館山市など、実際に状況を行ってみて確認してみると分かるのではないかと。
- 1ヶ月に4人が死亡している。黒い喪服をきたまま道路を渡ろうとしてバスに巻き込まれる事故や、バイパスができていたが2車線道路の渡り方に慣れていないことが原因。
- 河野委員 補足すると、高齢者が悪いというわけではなく、高齢からくる判断力や注意力の低下などがあるため、その部分をドライバー等が補完していき、守ろうということである。
- 桜井委員 高齢者に対してどのような取り組みを行っているのか。
- 河野委員 警察では、自治会等の集まりの際に、安全講話をおこなっている。数的にはさらに増やしていこうとしている取り組みである。
- 事務局 市も、警察と連携して老人クラブにも入り込んでやっている。これからも積極的にやっていく必要があると思っている。
- 増田委員 自動車教習所でも講習をやっているが、なかなか自主的には応募してこず、こちらから呼びかけて、何とか参加者の確保ができていく状況。
- 事務局 安全実務教習など、自動車教習所と連携して行っている。
- 鈴木（幸）委員 高齢者は、なるべく歩かなくても済むように、横断歩道がないところでも渡ってしまうことがあるが、横断歩道から次の横断歩道までの距離というのは、きまりがあるのか。
- 事務局 市街地はほとんど100m以上の間隔になっている。あまり横断歩道ばかりでも、ドライバーの注意が散漫になる。

河野委員 車の通行の支障にならないように設置してある。道路環境の違いにより、一概にどれくらいの距離ごとに、というのは言えないが、設置の判断については、市道であれば市と協議し、県道であれば県と協議している。

中村委員 事故の状況について、どういうところで事故が発生しているのか教えて欲しい。施設面では、優先道路がはっきりしていないところで事故が多く発生しているのであれば停止線を設ける等の対策があるし、幹線道路で多いのか、細い道路で多いのか、啓発していく部分と施設等のハード面の両方で捉えていく必要があるのでは。

河野委員 優先道路かどうかの判断は、自分の主観的な部分が大きい。自分の走行している道路の道路幅は分かるが、相手方の道路幅が分からずに自分の方が広く見えてしまうためにそのまま徐行せずに交差点に進入し、事故になっているケースが見受けられる。事故の割合は、信号機のない交差点で25%、信号機のある交差点で21%と、全事故の半数近くが、交差点内で発生している状況である。ドット線や停止線があれば、そこが優先道路かどうか分かりやすいが、住宅街の中には、停止線もない道路もたくさんある。譲りあう気持ちがないと事故につながりやすい。場所によっても状況が違うので、道路標示や標識、警告標示は極力県警本部に要望しているところ。道路のペイントについては、市の道路課と頻繁に協議している。

中村委員 第9次計画に何を載せるのかと考えた時、標識等、何の表示もない交差点もある。先に反映させると地域の様子が分からない。その前に取り組めることもあるのでは。

事務局 特に市で把握しているこれといった特徴は見当たらない。問題のあるところでは、整備の改善はやっている。改善しなければならない市民の要望はある。信号機、横断歩道の設置については、その都度警察署と協議しながら設置について進めている。

増田委員 ハード面でいくら整備しても、ドライバーにも問題がある。自動車教習所での講習では、一時停止の標識が見えていない人も多い。ドライバーにきちんと理解させることが必要。

また、待ち時間の分かる信号機が市内に設置されているが、効果はあるのか。

河野委員 どの程度効果があるか特には、調査はしていない。

事務局 どの位待ち時間があるのか一目瞭然で分かるので、歩行者から見れば良いと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

(事務局説明)

現在、関係機関に調査を投げかけているところなので、1月の半ば頃までにたたき台のたたき台を委員の皆さんにお配りし、目を通していただいた上で1月末に第2回の会議で意見を集約したいと考えている。

具体的には、開催予定日時が1月28日(金)10:00から、場所は本日と同じ分館大会議室で開催する予定。

○ 会長の代理について

規則の第5条第2項に、「会長に事故があるとき又はかけたときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する。」となっていることから、職務代理を会長(小嶋委員)の指名により鈴木幸子委員に決定した。

○ その他

(鈴木孝委員)

資料2の一覧表の担当課の部分に、空欄があるのは、どこが担当しているのか。

(事務局)

省略しており、直前の欄内に記入されているところが担当課となる。

(事務局)

3回目の会議は、今年度末に最終的な素案を詰めていき、県計画との調整を図り、平成23年度の第1回で承認いただく予定。

我孫子市は、同規模の他の自治体と比較しても、交通事故も犯罪も他と比較して件数は少ない。これもひとえにボランティアや地域の方々のご協力の賜物であると思っている。第8次計画と第9次計画はそれほど大きな違いはないと考えているが、先ほどご説明したように、高齢者と子どもについての内容に重点を置いたものにしたいと考えている。

今後ともご協力をお願いしたい。

8 閉 会